

# 『地域おこし協力隊』制度を活用



地域おこし協力隊として任命された

栗村 合さん（札幌市出身）

（任期：平成 26 年 4 月 1 日～  
平成 29 年 3 月 31 日）

少子高齢化が進む日本。安平町も例外ではなく、人口の減少とともに高齢化率は30%を超え、地域全体の衰退をいかに食い止めるかが課題です。そこで、国が創設した「地域おこし協力隊」制度を活用して、安平町の新しい魅力や地域資源の活用方法を発見してもらうことができました。「地域おこし協力隊」とは、平成21年度に総務省が始めた事業で、地方での生活や地域社会への貢献を望む若者が地方に移り住み、地域活性化の活動をするもので、過疎地で受け入れが進んでいます。安平町でも4月から地域おこし協力隊が、新たな発見を求めて活動を始めました。地域おこし協力隊の活動に、応援よろしくお願います。

（今月の1枚）

## 地域おこし協力隊

栗村 合さん  
くりむら こう

今回登場していただくのは、安平町にとって初の「地域おこし協力隊員」となった栗村合さんです。

隊員になったきっかけから、どんな活動をしていきたくいかなどお話を伺いました。

### 『消えない思い』

大学卒業後、民間企業で営業、販売に携わっていたのですが「観光に関する仕事に携わりたい」という思いが消えなかつたんです。

仕事は、人生で大きなウエイトを占めることになるので「やりたいこと」にチャレンジしようと思って応募しました。

### 『安平町での発見』

安平町には、知り合いもいなかったのですが、町に馴染むことができるか不安でした。実際に、引越してきて生活が始まり、町民の皆さんの温かさにも触れることができ、当初抱いていた不安も解消することができました。

生活をする中で、安平町の環境の良さに気付きました。長く住んでいた札幌よりも空気が空が綺麗に感じます。さらに、部屋から外を眺めると、綺麗な夕日を見ることができなのが気に入っています。

### 『初という意味』

光栄に思うのと同時に、今後の協力隊という存在にも大きく関わるものだと思っています。その分、責任の重さを感じつつ、「協力隊がいて良かった」と思われるように任務に励んでいきたいです。

### 『限られた任期の中で』

今は、物産館の運営や観光情報の収集発信を主にしています。他には、先日行われたうまかまつり開催に向けた会議にも参加しています。今はまだ取り掛かることはできていないのですが、3年ある任期の中で、既にある施設やイベントをちよつとしたアイデアでより良い

ものにしていければと思っています。

### 『若く、新しい風』

若者の視点で、魅力を発見、活用、そしてアピールしていければと考えています。精一杯頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願います！



JR 早来駅前の花壇整備に向けて準備をする栗村さん